

# 野菜・果実とも微増

昨年の輸入量 キャベツ、ジャガイモ大幅増

昨年1～12月の生鮮野菜・果実の輸入量は、野菜は国産の高値などで前年比14・4%と大幅増の95万2166ト、果実も同2・4%増の165万8241トと、いずれも増加した。冷凍品等を合わせた総計では、野菜が9・2%増の183万3740ト、果実が2・4%増の188万6212トとなっている。

野菜の品目別では、国

3分の1以上を占めるタマネギは微増。一方、加工用ジャガイモ、ピーマン・パプリカは減少している。

果実の主力品目では、全体の6割以上を占めるバナナが、一時期よりフイリピンが生産回復して微増。パイナップルも引き続き微増。また人気商材でありながら前年は減少したキウイ、アボカド、ブドウは大幅増加。

産の不作を受けたダイコンが5倍、キャベツが2・4倍。さらにニンジン、ネギなど中国産主体の品目が急増した。カボチャ、ブロッコリー、レタスなども増加。全体の

一方、アメリカ産の不作などでオレンジ、グレープフルーツの減少が続く。とくに2004年には28万5千トあったグレープフルーツは、4分の1まで減少している。